

# 学園だより

Vol.82

2007.10  
Nara Women's  
University



記念館秋景 (奈良女子大学メールマガジン-034号より)

三足のわらじ	1
上野 祐子	
教養広場 Liberal arts Forum	2
ともかく現場に出かけよう	
内田 忠賢	
ドイツ滞在を振り返って	小川 英巳
次世代の健康を担う	
女性の食生活	中田理恵子
寄稿 私のチャレンジ	5
金子由果・嶽村智子・加藤直子	
卒業生からの寄稿	8
学部卒業後三十年……	肥留川嘉子
未知なる可能性……	杉浦真由美
佐保会だより	10
こんな本を出しました	11
中島道男・池原健二	
松田 覚・安藤香織	
新任部局長紹介・新任教員紹介	13
学生生活支援	14
広部奨学金授与式	
授業料免除についてのお知らせ	
学生表彰	
平成19年度	
就職活動支援行事カレンダー(後期分)	
第45回近畿地区	
国立大学体育大会の結果について	
学生相談室から	



# 三足のわらじ

上野 祐子

奈良女子大学監事  
(会計監査担当)



YUKO  
UENO

大学院を修了してからあまり訪れる機会のなかった母校に、国立大学法人化を機に設置された監事として定期的に通うようになりました。私の心の中には凜々しくもどこかのびやかな大学の雰囲気がか懐かしく思い出されていました。しかし、法人化四年目を迎え、大学を取り巻く大きな環境変化の中で、本学の置かれている状況には厳しいものがあると感じるようになってきました。

私は企業に就職することなくマーケティング企画・調査研究を専門とする会社を起業し二十六年になります。そして昨年、社歴百十年東証一部上場企業の社外取締役を引き受けました。外部の視点から会社の業務執行に携わる人々を監督し、取締役会で経営判断に対して発言・提案・意見具申を行い意思決定に参加するという役目です。監事、社長、社外取締役という三足のわらじ、したたかな履き甲斐と重い責任があり只今悪戦苦闘の真最中です。

近年、企業も国立大学法人も機を一にして、マネジメントに外部の視点を持つことで社会の常識を組織の中に呼び込み、激変する経営環境に対応していくことになっています。「コンプライアンス(法令順守)体制の整備や内部統制システムの充実を

図るとともに、社会や地域との関わりを重視し組織価値を高めて、企業や大学の新たな価値創造を目指していくことです。

最近、この三足のわらじを履きながら感じるがあります。

一つは、時の流れが激しく厳しい時代に最も重要なのは「世の中の流れをいかに読むか、深く読めるか」ということではないかということです。「読み解く力」を試されている気がします。また、それに呼応して「いかに最適かつ効果的な行動を起こすか、起こせるか」ということが問われていると感じます。そこには「スピードと戦略性」というキーワードが隠されています。

二つ目は、「意思決定にその組織の本質的な生き方と価値観が表れる」ということです。意思決定に至る論理と情報力と情報に対する視点が、組織の本質を映し出すのです。それは自ずと他者に明確に伝わるものです。

三つ目は、「目的に対して主体的に機能する組織やしくみの構想力・運営スキルこそ組織エンジンであり、その源泉は人である」ということです。

有能な組織エンジンをつくるのはマネジメントの要諦ですが、大学においても時代の変化に応じた柔軟なエンジンづくりが重要であると痛感します。

その時、「人が能力を発揮できるしくみ」をどう構築するかが重要なポイントであると思います。

本学には、学部卒業三十周年目に有志主催の全学同窓会を奈良ホテルで催すという古き佳きしきたりがあります。今年、私はその三十周年を迎えました。本学で学んだことは、卒業生一人ひとりに自信と誇りを与え続けてきたであろうと思います。だからこそ本学の本質的価値に繋がるものではないでしょうか。

奈良にある女子の国立大学法人であるこの存在意義や期待される役割・価値について、現代的世界観や将来的視座から見直しや再評価をしていく時が来ています。本学は、その価値を世に問い続けることが重要であると思います。学生の皆さんも、自らの価値を世に問い続けていくことを畏れず、さまざまなことにはチャレンジし続けて欲しいと願います。

本学のこれからとみなさんの未来に大いなる期待を寄せています。

最後に、私は鹿児島出身ですので島津日新公忠義の歌をご紹介しますと思います。

いにしへの道を聞きても唱へても

わが行に せすばかりなし

# ともかく現場に出かけよう

内田 忠賢

大学院人間文化研究科 教授  
 社会生活環境学専攻 社会地理学講座



TADAYOSHI  
 UCHIDA

「あるく・みる・きく」という言葉は、地理学出身の大民俗学者、故・宮本常一（一九〇七～一九八一年）が提唱したフィールドワークの姿勢だ。彼が主宰した雑誌名にもなっている。現場重視。フィールド系の分野では、ある対象に関心を持つたら、ともかく現場に出かける、これが一番だと私は信じている。文学系の先生方に叱られそうだが、極端に言えば、文献や理論など、どうでも良い。机上の空論、図書室の寝言ではなく、自分の実体験を重視し、現実を直視する。フィールド屋としては、当然の話である。

さて、私は、昨年四月に、本学の姉貴分、お茶の水女子大学から転動してきたため、一年以上経った今でも、「お茶大と奈良女は、違っ？」としばしば尋ねられる。両大学は、明治時代に開学した東西の官立・女子エリート校（女子高等師範学校Ⅱ女高師）が起源。伝統の校風だろうが、どちらの学生も、真面目で良く勉強する。お茶大十二年間、奈良女一年間の勤務で私の知る限り、奈良女生のほうが、より真面目で、より素直という印象である。私は地理学者なので、大学の立地や、学生の出身地で説明したいところだが、それは別の機会に譲るとして、逆に言えば、お茶大生のほうが、不真面目で生意気という印象である。

お茶大生の中には、（ほめ言葉だが）

大学教師を小馬鹿にしている、良く言えば、教員に頼らない学生が少なからずいた。一方、奈良女生は、おおむね従順で、教員を立ててくれる。必ず「先生、どんな本を読んで勉強したら良いですか？」と、まず尋ねてくる。

前任校で、私が卒論を担当した学部・ゼミ生は、毎年、七、八人だったのだが、数人は参与観察（調査対象の相手側に入り調査する方法）をした。たとえば、「ご当地ラームンと地域社会」をテーマにする学生は、老舗ラームン屋に「バイト代はいらないので、住み込みで働かせて欲しい」と直談判し、「秋葉原メイド喫茶」を調べようとする学生は、当然のように、まず、現場でメイドとしてアルバイトを始めた。彼女たちの卒論は、学術論文の形式としては不十分だったが、データのオリジナリティ、ルポルターージュの独自性は、プロの研究者、新聞・雑誌記者以上の出来だった。何より、彼女たちの好奇心と馬力に感心した。当然ながら、卒論には満点（100点）を、私は付けた。

私も参与観察を心がけるようにしている。調査対象に潜入し、自分自身の体験をデータとする。研究テーマの一つが、全国で展開する「よさこい系祭り」の研究である。集団の踊りによる地域イベントの背景、その社会や文化について調べている。当然、私は踊り子やスタッフと

なった（右の写真参照）。「観察」では分からなかったことが、徐々に明らかになってきた。

参与観察という言葉に関して、誤解をしている人が少なくない。現地に行く、現場に立ち会うだけでは「観察」にすぎない。海外の地域調査では、現地の言語を習得し、長い時間を掛けて、向こうの社会の一員として認めてもらう、ようやく参与観察はスタートするのだ。

とはいえ、学生の皆さんに、フィールドワークでは「参与観察以外は邪道」と主張する気はない。まずは、積極的に、好奇心一杯に、ともかく現場に出よう。考える前に、本を読む前に、ともかく行動しよう。この気合に、奈良女生の勤勉さが伴えば、鬼に金棒かもしれない。



ゼミ生の取材（佐渡島の林業関係者に）

# ドイツ滞在を振り返って

小川 英巳

理学部 教授 物理科学科



HIDEMI  
OGAWA

私は、平成十五年三月末から十ヶ月間、文科省在外研究員としてドイツに滞在しました。私がお世話になったのは、通称GSIと呼ばれる、ダルムシュタットという都市にある研究所で、ホストとして私を迎えてくれたハンス・ガイセル教授とは二十年來の友人です。ダルムシュタットはフランクフルトの約二十km南に位置します。GSIは、ヴィクスハウゼンという町のはずれの、周囲を森に囲まれた自然環境豊かな場所であり、原子核物理・原子物理の分野では世界をリードするアクティビティの高さを誇っています。また、イオンビームを使った癌治療でも大きな成果を上げています。ハンスは、私の渡独が決まった後、GSIでのビームタイム（加速器のビームを優先的に使える実験の時間）を確保してくれ、また彼が所属する部門の秘書を通じて私が住むアパートの部屋も見つけてくれました。このアパートはヴィクスハウゼンのほぼ中央にあり、Sバーンと呼ばれる郊外電車の駅にも近く、またGSIから約2kmと自転車で通うにはちょうど良い場所にあります。

GSIには、ヨーロッパ各国を始め、ロシア、中国、インドなど世界各地から大学院生、ポスドクが大勢集まっています。これは行ってから初めて分っ

たのですが、ハンスの研究室には、私が行く一年前から日本人のポスドクの方も在籍していて、生活面でのノウハウは全て彼が教えてくれました。お陰で、渡独前に抱いていた不安は瞬時に吹き飛び、随分前からドイツに住んでいるような錯覚に陥るほどでした。研究に関しては、アメリカ人のポスドクの方と一緒に実験の準備を進めていたので、昼食なども含めて彼と行動を共にすることが多く、非常に良い英会話の練習になりました。

また、GSI滞在中に、フランスやベルギーで開かれた研究会に泊まりがけで参加したり、知合いの研究者を訪ねて、デンマークまで夜行列車を使って日帰りで往復したりしました。フランスでは研究会の合間に地中海で泳ぐことができ、ドイツへ戻るとすぐに、奈良の人達に自慢のメールを送りました。プライベートでは、別の部門にいた日本人の方と一緒にアパートの近所にあったテニスクラブに入会し、二人でよくテニスもしました。テニスの後はクラブハウスでヴァイツエンビール、というのが我々のお決まりのパターンでした。

そしてドイツでの生活も残り二ヶ月となった頃に、今回の滞在のクライマックスとも言える四日間のビームタイムを迎えました。このビームタイムでは

私自身が提案した測定をやらせてもらいましたが、狙い通りの結果が出るかどうかが気になって実験室を離れ難く、ほとんど寝られない夕方な四日間でした。その甲斐あつてか、実験中の簡単なデータ整理では非常に満足いく測定ができていた事が判り、そのデータ解析等が残りの二ヶ月もあつという間でした。この十ヶ月は、今までの五十年の人生の中で、最高に楽しく充実した期間でした。





# 次世代の健康を担う 女性の食生活

中田 理恵子

生活環境学部 講師 食物栄養学科



RIEKO  
NAKATA

近年、成人、特に成人男子では肥満が増加しており、メタボリックシンドロームという言葉をよく耳にするようになっていきます。一方、若年女性ではダイエット志向による痩せ願望が強いことが社会問題になっていきます。平成十六年の国民健康・栄養調査では、20〜29歳女性の低体重（BMI<18.5、BMI≡ $\frac{\text{体重(kg)}}{\text{身長(m)}^2}$ )の割合が、二十年前に比べて1.5倍に増加しているという結果が示されています。また、自分の体型が「普通」であるにも関わらず「太っている」と評価する人、「痩せている」にも関わらず「普通」と評価する人、すなわち自分の体型を過大評価する人が多いという結果も示されています。過度の痩せ願望、ダイエット志向は、自身の健康だけでなく、次世代の健康へも影響を与える心配があります。

若年女性の「やせ」と低体重出生児（出生体重2500g以下）の増加が問題になっていきます。妊娠・出産前に「やせ」であった女性は、そつでない女性に比べて、低出生体重児を出産するリスクが高いことが指摘されています。低出生体重児では、成長期に急激な発育が見られて正常児に追いつくものの、このような成長過程をたどった場合、壮年期に生活習慣病を発症するリスクが高くなっていることが知られるようになっていきます。

胎児期に低栄養状態にさらされると、環境に適応するように生存に有利な遺伝子（俊約遺伝子）が発現するようになりま

す。この発現した遺伝子は出生後も機能し、やがて肥満、II型糖尿病、高血圧などの発症リスクを増加させるように作用すると考えられています。従って、胎児期の栄養状態によって、児の一生の健康状態がプログラミングされてしまうということになります。また、ダイエットなどにより、食習慣が乱れた経験のある人は、婦人科系疾患を発症する可能性が高いという報告もあります。

出生児の健康に影響を与える栄養素として、葉酸が注目されています。水溶性ビタミンの一種である葉酸は、DNAを構成している核酸の合成ならびにDNAのメチル化に関与する補酵素で、葉酸が欠乏すれば、細胞増殖やDNA合成が阻害されます。また、葉酸欠乏により惹起される高ホモシステイン血症は、胎児の神経管閉鎖障害や発育不全だけでなく、心血管疾患の発症リスクを高めることが知られています。日本では2000年に、厚生省（現厚生労働省）から「神経管閉鎖障害の発症リスク軽減のための妊娠可能な年齢の女性に関する葉酸の摂取に係る適切な情報提供の推進について」という通達が出され、一日0.4mgの葉酸摂取が望ましいとされていますが、若年女性を

対象にしたいくつかの調査結果では、その約50%程度しか摂取していないと報告されています。ダイエットによる栄養の偏りは、女性にとって特に大切な葉酸の欠乏を招き、様々な障害を引き起こすこととなります。

このように、女性は自分の健康のみならず、次の世代の健康も担っているということを深く意識して、食生活を送る必要があります。食や健康に関する多数の情報が溢れています。情報を正しく理解し選択できる能力を養い、適切な健康観を持って日々の食生活を設計していきたいものです。



# アメリカでも日本でも

金子 由果

大学院人間文化研究科 博士前期課程  
言語文化専攻 二回生

YUKA  
KANNEKO

変わらない、人間の優れた点だと思えます。

近年はテクノロジーの発展が目覚しく、ほとんどの作業はコンピュータまかせ、人同士のコミュニケーションも機械越しという形が多くなりました。ですが、困難に直面するとき、私を助けしてくれるのは周りにいる人々です。助け合いながら人間としての素質をお互いに高めたいける、こういうことが無意識にできる人間になる、というのがこれからの私のチャレンジです。

修士課程二年目の途中に休学を申し出て、私はアメリカのペンシルヴェニア州にある Indiana University of Pennsylvania に入学し、その大学院で英語教授法を学んできました。勉強は大変でしたが、英語教育への視点が随分と広がり、自分なりの Teaching Philosophy も明確にすることができ、将来の職への基盤を固めることができました。また、私がアメリカの素晴らしさを友人たちから学ぶのと同時に、私自身も日本の素晴らしさをみんなに伝えることができ、アメリカから友人を2名ほど日本に就職させることに成功しました。

そんな個人的自己満足を話すよりも、私は奈良女の皆さんにもっと一般的だけれど忘れがちなことを一つお話ししようと思います。それは、「人間っていいな」ということです。これは別にまんが日本昔話のエンディングテーマからの引用ではありません。留学先のアメリカでは、学校生活、日常生活において、私は多くの困難に直面しました。でも、それらを何とか切り抜けて無事に院を卒業し日本に帰国できたのは、多くの人々の助けと励ましがあつたからです。そんな時、私は「人間っていいな」と心からそう思ったのです。

たとえば、これはちよつと私が帰国

する直前の5月14日のことでした。私は日本に送る荷物を大きなダンボールで7個ほど持っていました。それを郵便局まで運ぶために、車を持っている友人が手伝ってくれました。しかし、アメリカ郵便局は5月14日付で、(テロ等防止のため) 船便サービスを全面廃止してしまつたのです。7個分のダンボールは航空便で10万円以上はかかります。そんな大金は払えないと今にも泣き出しそうだった私に(本当にそのときの私は憐れでした) 郵便局で声をかけてくれたのは、偶然用事でその場に居合わせたマレーシア人の友達でした。その友人は民間の郵送会社に電話して私のために情報を集めてくれました。

また、別の友人は他の郵送会社まで荷物を運びなおしてくれました。訪ねていったその郵送会社でも船便はもはや扱っていませんでした。が、その店の人は私の荷物を特別に商業製品として日本に安く送れるかもしれないと、何日もかけて日本への貨物船がないかを探してくれました(まだその店員の名前を覚えていません。Nishai)。

最終的には無事に荷物を送ることができ、今私の手元に無事に届いております。この一件でも、私は多くの人の優しさに助けられました。優しさ、思いやり、これはたとえ国境を越えても



卒業式にて  
親友たちと



ルームメートのSandyと



# 常にチャレンジ

嶽村 智子

大学院人間文化研究科 博士後期課程  
複合現象科学専攻 一回流

TOMOKO  
TAKEMURA

奈良女子大学に入学して以来、私はチャレンジする日々を送っている。学部生時代と博士前期課程時代にそれぞれ一つずつ、大きなチャレンジを成し遂げた。そして、博士後期課程に在籍している現在も、新たなチャレンジに挑んでいる。

最初のチャレンジは、「三年次早期卒業」への挑戦だった。この制度は、私の一学年上から導入されたものであり、様々な厳しい条件を満たした上で、会議で認められれば、大学を三年間で卒業できるというものである。奈良女子大学では、私が「三年次早期卒業」への初めての挑戦者だったので、不安もあったが、無我夢中で勉強することによって不安は解消された。晴れて、「三年次早期卒業」が認められた時は、本当に嬉しかった。このチャレンジが達成できたのは、自分の努力はもちろん、家族、友達、諸先生方の励ましのおかげだと思っている。

二番目のチャレンジは、博士前期課程で留学生をサポートするチューターになった事だ。私が担当したのは、アフガニスタンからの留学生だった。彼女は簡単な日本語は話せたが、生活面や授業内容の相談は英語で行った。英語が大変苦手だった私は、彼女との生活を通して、英語の語彙力や英会話の自信を得られることができたことを幸

せに思っている。このチャレンジにより大きく成長できたのは、アフガニスタンから留学してきた彼女と、彼女のチューターになることを勧めてくれた富崎先生のおかげだ。



カリマさんと入学式

現在のチャレンジは、博士後期課程で学位を取得する事だ。その目標に向けて日々努力している。私は大学に入学して以来ずっと数学を専攻しているが、勉強すればする程、数学を面白く感じる。数式を解くのに夢中になって、何時間も経っていたという事もよくある。しかし、研究結果を論文にまとめるのは苦手である。この点を特に努力して論文を書き、学位を取得できるよう頑張りたい。また、楽しみながら思う存分数学を勉強できている現状を、家族と諸先生方に感謝している。

今まで成功した二つのチャレンジがそうであったように、チャレンジを成し遂げるためには、自分の精一杯の努力と周囲の人々の支えが必要である。周囲の人々の支えは、時にチャレンジする機会を与えてくれる事であったり、時に励ましてくれる事であったり、私の学生生活にチャレンジをもたらし、そのチャレンジを成功へと導く偉大なものであった。私のチャレンジに関わってくれた、家族、友達、諸先生方、全ての人への感謝の気持ちを忘れずいたい。さらに、私は自分自身が成長するために、これからも常にチャレンジを続けていく。



# 学生生活再び

加藤 直子

大学院人間文化研究科 博士後期課程  
 社会生活環境学専攻 二回生

NAOKO  
 KATO

昨年春、修士課程修了から八年を経て、私は大学院博士後期課程に入学し再び学生となった。残念ながら今から十年ほど前の大学入学時の期待と不安の入混じる初々しい感覚はなく、チャレンジとは少しイメージが異なるが、修士課程からこれまでの経験と現在考えていること等を書きたいと思う。

私は、学部四回生から修士課程で、歴史的建造物に関する調査・研究の中で様々なことを経験させてもらった。実際に民家、町なみ等の実測等の調査で多くの図面を描き、人間の生活空間のスケールというものを体でおぼえられたと思う。また指導教員である増井正哉教授が責任者を務めるユネスコ日本信託基金によるガンダーラ遺跡保存プロジェクトの手伝いをさせてもらったことも大きい。ここではパキスタンという途上国における遺跡の分布調査のほか、伝統的都市住宅の実測調査も経験することができた。そこでは、海外で、すなわち文化が異なる人々とひとつの作業を効率的に進めるために、自分の意向を理解してもらい、また相手が考えることを理解しようとする姿勢が大切だということを学んだ。

このような様々な経験をし、修士論文では、近江における都市祭礼と町家の形態との関係性をテーマに選び、祭礼時の町家のしつらいについて調査を行った。

当たり前だが祭礼というものは、年に一度しか行われない。四回生から祇園祭や滋賀県の大津祭や日野祭、大阪の天神祭等の調査を行ったが、「今を逃すと来年まで調査ができない。もし調査で足りない部分があったら論文がかけない。」という変な緊張感は八年以上たった現在でも記憶に残る。

そして修士課程修了後、幸運にも文化財コンサルタントとして勤務することになり、ここでも多くのことを経験した。文化財コンサルタントというのは、世間では認知度が大変低い。「発掘するんですか?」とか「何をやる会社ですか?」と好奇な眼差しを向けられ、「歴史的な建造物や遺跡といった文化財を保存するために調査を行い、保存計画を作成したり、保存修理工事のための設計や設計監理をする仕事です。」と説明すると「そんな仕事があるんですね。」といった反応をされることが多かった。修士課程で、様々な歴史的建造物や遺跡の調査・研究を行ってきたとはいえ、建築の歴史や文化財保存の制度等、専門知識を得ることについては大変勉強になった。また仕事の多くは、一人であるものではなく、様々な視点や感覚を持つ様々な立場の人々が、ひとつの目的に向かって物事を成し遂げることで、自分の立場を見極め、全体を見つつ最善を尽く

することが重要であり、そこに面白さと困難があるということを学んだ。その一方で文化財コンサルタントの主な仕事は文化財保存事業のマネージメントであり、その文化財の価値や歴史・復元的考察といった遺構そのものに関する作業は大学や研究機関へ依頼することが多かった。

現在、ユネスコの保存事業にも関わらず、コンサルタントではできなかった歴史的・復元的考察というテーマに取り組みべく、パキスタンのガンダーラ仏教遺跡をフィールドとし研究を進めている。その中で文化財の保存の仕事というものの存在を知ってもらうとともに我々は何を保存するのか、ということも考えていきたい。



パキスタンの遺跡



遺構の復元作業



# 学部卒業後二十一年

肥留川 嘉子

文学部國語国文学科 昭和五十一年度卒業  
 大学院文学研究科(修士課程) 国文学専攻 昭和五十二年度修了  
 大学院人間文化研究科(博士課程) 比較文化専攻 昭和五十八年度修了  
 学術博士(博課程第一号)  
 京都光華女子大学文学部 日本語日本文学教授



YOSHIKO  
HIRUKAWA

今年是我们学年的学年が、学部を卒業して三十年になるということで、八月に当時の文学部・理学部・家政学部を通しての記念同窓会が開かれるという。「という」などと他人事のように言っ

ていられる立場では実ではなくて、その準備の手始めに、昨年末各学部・学科のこの学年の卒業生で奈良周辺に在住の者に声がかかり、実行委員会が組織された、その一員に私も入っている。

私たちの学年に限らず、例年卒業後三十年目の同窓生が、全学部を横断しての同窓会を開くらしいということは、数年前奈良で久しぶりに宮崎の先輩に会って、その来寧がそれに出席するためだと聞いて初めて知った。例年開くといっても、同窓生のメンバーは前年とは全員異なるわけであるから、そのいわば伝統はどのように受け継がれてきたのか、すこぶる不思議に思っていた。が、いよいよ自分の学年がその年を迎えてみて、その仕組みは判明した。

当該の学年の同窓会当日、一年下の学年から選ばれた一人が会場に招かれ、一部始終を見学した上で、その年の準備資料等一切とともに引き継ぎを受け、今度はその二人が中心となって、次年度の実行委員会を組織するところからまた始めるのである。

それにしても、実行委員は、卒業生

自身とお招きする恩師とを合わせて数百名に上る名簿の作成から始めて、実行委員の役割分担、会費の振り込み口座の開設、会場の決定、案内状の発送、当日のプログラムの内容検討、学科ごとの出席人数を把握しつつの座席配置勘案、記念写真の撮影写真館の決定(これには後日出席者各人への写真の送付まで請け負ってくれるかどうかの問題も含まれる)、様々なところへの支払い等々、ありとあらゆる種類の面倒な仕事をこなさなければならぬ。こんなことが、実行委員自身ほとんど三十年ぶりに顔を合わせる人たちがかりの集まりで、ほんとうにできるのか、とあらためても危ぶまれる。ところが、それがまことに見事になされて行くのである。

わが学年の実行委員全員が集まる会合は、今年一月から六月までに三度開かれ、私が出席できたのは最初を除いた二回だけであったが、そこでの委員各人の仕事ぶりは、胸のすくような明快さ、敏捷さであった。それぞれがそれぞれの日常の繁忙の中にありながら、自分の担当範囲のことでその日までに可能なことはすべて済ませて、会合に必要な資料も落ちなく揃えて臨んでいるので、限られた時間内にほぼ必要なことは決定を見て、次回までの課題も

明確に整理されて散会となる。だからこそ、委員の中には私のように、あまり重要な役は担えないようなのが混じっていても、それをものともせずに進んで行けるのである。

こういうのを、あるいは事務的な有能というのかもしれないが、その有能な働きを可能にするためには、一人一人に、つねに全体との関係から各個の役割を考えられる叡智と、他を思いやる想像力とが、備わっていることが必須である。しかも、これらのことはみな無償でなされていることを思うと、やはり奈良女の力は偉大だと、感嘆せずにはいられない、この度の同窓会実行委員体験であった。



全体同窓会の前夜、国語国文学科出身者だけで集まったプレ同窓会にて

## 未知なる可能性

杉浦 真由美

大学院人間文化研究科 博士後期課程  
人間環境科学専攻 平成十四年度修了  
神戸大学大学院理学研究科 生物学専攻  
日本学術振興会特別研究員P.D

MAYUMI  
SUGIJURA

生は大きく方向転換された。その結果、私は今ここにいます。現在の道は決して楽な道ではなく、過去を振り返りたくなることもある。しかし、自分が出会い、経験してきたことを元に自分自身で決断してきたこと、したがって反省することはあっても後悔することはない。日々、新しいことへの挑戦の連続でワクワクしているのは確かだ。

もちろん私の人生はまだ始まったばかりで、これからどんな新たな出会いがあり、どんな経験を重ね、どんな方向へと進んでいくのかわからない。はまだ定まらない将来に不安を感じながらも、未知なる可能性を楽しみつつある。時間は限られているもの、ひとつひとつの出会いを大切にしたいと思います。そこから何が始まるかわからない。チャンスがあるならばトライしてほしい。必ず何か得るものがある。

椰子の木々の間を通り抜けて、優美な花を咲かせる蓮池の脇を過ぎると、現在の私の仕事場へと辿り着く。台北に位置する中央研究院 (Academia Sinica) 分子生物研究所へ来てから、もうすぐ一年になる。日本学術振興会特別研究員の海外渡航制度を利用して、昨年九月、私は台湾へやってきた。当初はアメリカ、シアトルの研究機関へ行く予定が、何の縁か巡り巡って日本のすぐお隣の国へ来ることになった。



中央研究院 (Academia Sinica)

地元を離れ、奈良女子大学理学部生物学科 (現生物科学科) へ入学した当初は、自分が現在の職に就いていること、ましてやこの場所で働くことになることは、

全く想像し得なかった。この十数年の間に何が起り、なぜ私は今ここにいるのか。確実に言えることは、奈良女子大学で過ごした時間がなければ、まず今の人生はなかっただろうということだ。奈良女子大学には博士後期課程修了後も研究員や非常勤講師としてお世話になり、計十二年もの長い時間を過ごさせてもらった。これほどの長期に渡って在籍することに関しては、賛否の分かれるところだと思う。私の場合は、奈良女子大学での数々のかけがえのない出会いと経験を元に、その時に自分で下してきた判断の結果によるものである。継続することも変化を起すことも、どちらも勇氣がいる。私の人生に最も影響を与えた「出会い」、それは今現在もお世話になり続けている学部生時代、院生時代の指導教員との出会いと、研究との出会いだ。指導教員である春本晃江教授は、いつまでも若々しくアグレッシブで常に妥協を許さず、挑戦し続ける姿勢を私達に示し続けてくださっている。同じ研究の分野に踏み込んだ私にとって、かけがえのない女性研究者の目標だ。そして、学部四回生の時から現在に至るまで、私を魅了し続けてくれる「生命の神秘」と、それを探求し解明することの面白さ、この両者との出会いによって、私の人

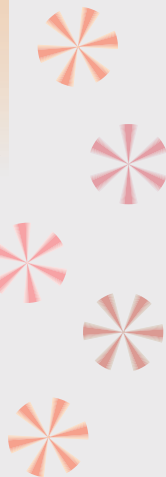


蓮池



# 佐保会だより

## 修理完成した佐保会館（登録有形文化財）



大学の運動場の北西隅に陽光を浴びてひととき輝いている木造の大きな建物があります。この建物は奈良女子高等師範学校の卒業生諸姉の寄付金によって昭和3年に同窓会館として建てられたもので、その後、女高師・奈良女子大学の卒業生からなる同窓会の活動の拠点となっています。建物内部の1階は、主として和室（6畳、8畳、22畳）、2階は洋室の大広間（123畳）という設えで、平成17年、この建物は国の登録有形文化財（文化庁に登録されました。しかしながら、77年の歳月を経たこの建物は極めて老朽化が進んでおりましたので、登録有形文化財として登録されたことを契機に、修理することになりました。そして建物の傷んだ部分を修理するだけでなく、建物を将来長く活用できるようにと耐震補強工事をも施すこととし、工事は平成18年3月から1年がかりの大修理となり本年3月末に無事完了いたしました。

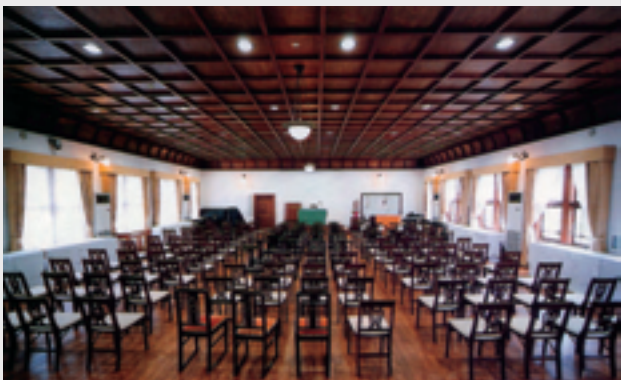
この修理のための調査、設計、修理中の工事監督、その他工事に関わる一切の事柄、また、部屋の内装の壁紙、カーテンなどの選定、はたまた机、椅子などの修理や補充など、すべてについて大学家政学部住居学科を卒業された佐保会員の方々が中心になって携わっていただきました。

修理は建物や什器ばかりでなく、佐保会が会館建設当初から所蔵していたピアノ（アップライト型）やリードオルガンにまでおよびました。ピアノは製造番号から、約110年前の明治30年頃に製作されたことが判り、オルガンは明治42年頃に製作されたことも判りました。

旧いものの温存・再利用することは当然のことながら、これに加えて2階大広間には最新鋭の映像機器（液晶プロジェクター、52インチ・62インチ液晶テレビ（録画・再生 DVD、CD）、書画カメラ）、音響機器などの設備も整備し、講演会や音楽演奏会などを開催できるようにしました。

桜の花が満開の今年4月7日（土）、登録有形文化財に登録されたこと、大修理が無事完了したことを記念して佐保会館2階大ホールで記念式典を挙行し、引き続き記念講演（東大寺別当 森本公誠猥下）とリードオルガンの修理披露演奏（大阪芸術大学短期大学部講師 大森幹子先生）が行われ、約150名の参加者に耳を傾けていただき、佐保会館が見事に甦ったことを印象づけることができました。

ひきつづき4月から7月にかけて、次の4つの記念講演会、清川妙氏「心はいつも育ちざかり」（4月21日）、



2階大ホール（生駒ホール）

高野悦子氏「わたしのシネマライフ」（5月26日）、川口汐子氏「あの夏少年はいた」（6月9日）、武田佐知子氏「母から娘へ」（7月7日）を佐保会主催、奈良女子大学後援のもとに開催し好評をいただきました。このうち川口氏の講演会は大学記念館で開催しましたが、そのほかの3講演会は佐保会館2階大広間でおこない、いずれも100〜150名の聴講者が来館くださいました。

佐保会館は同窓会の活動拠点としてだけでなく、在学生と卒業生との交流の場として、また奈良女子大学が広く地域社会への貢献に努めておられる活動の支援の一環として、佐保会が地域社会に対して開かれた文化活動の拠点として末永く使用するつもりです。

皆さん、会館を見に来てください。



生命はどのようにして生まれたのだろうか。しかし、多くの人が生命の起源のように過去の事象を研究するのは非科学的だと考えている。私も最初から生命の起源を研究していたわけではなかった。遺伝子やタンパク質のデータを解析し、それらの基本的な性質を知るための研究を行っていたのである。その過程で遺伝子や遺伝暗号、タンパク質の成り立ちについての独自の考えに到達した。その時、生命は広く知られているようにRNA-ワールドから生まれたのではなく、構造の簡単な4種のアミノ酸、グリシン(G)、アラニン(A)、アスパラギン酸(D)、バリン(V)からなる[GADV]-タンパク質の疑似複製によって形成された[GADV]-タンパク質ワールドから生まれたとの考え(GADV仮説)が閃いた。本書はそのような私たち独自の考えの内、生命の起源を中心にまとめたものである。私たちの考えが本書を通じて広く知られることを期待している。

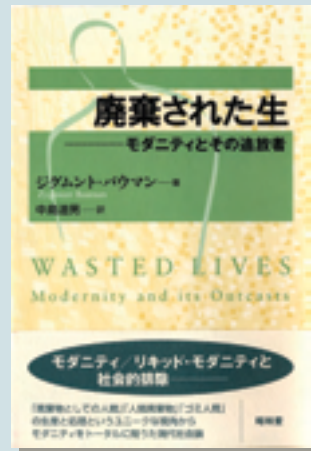
(『GADV仮説—生命起源を問直す—』  
池原健二著 京都大学学術出版会、2006年、  
1,500円+税)

池原 健二  
理学部 化学科 教授  
機能化学講座



KENJI  
IKEHARA

## 「GADV仮説 —生命起源を問直す—」



翻訳という仕事は割に合わないと思いつつも、ついやってしまった。それほどバウマンはおもしろいということであるし、「こんな本を出しました」と素面で言うのは美学に反するなどと言わずに、宣伝に努めなくてはならないということでもある。

ジグムント・バウマンは1925年生まれの世界社会学者で、ポーランド系ユダヤ人。80歳を過ぎた今でも毎年(ときには複数の)単著を出している、すごい人だ。本書は、廃棄された人間＝人間廃棄物の生産と処理という観点から、モダニティ(バウマンのキャッチフレーズになっている観のあるリキッド・モダニティも含めて)をトータルに論じた本。力の入れ様わかる、バウマン入魂の一冊である。現代の文化を廃棄物の文化ととらえて、スピードデートなる商売にも言及している。

売り切れるといけなないので(世の中、何が起きるかわからない)、お買い求めは早い目に。

(『廃棄された生——モダニティとその追放者』  
ジグムント・バウマン著、中島道男訳、昭和堂、  
2007年、3,000円+税)

## 「廃棄された生 ——モダニティとその追放者」

中島 道男  
文学部 教授  
国際社会文化学科 社会情報学講座



MICHIO  
NAKAJIMA





私も、育休が明けてもうすぐ約4年になります。早いものですね。育休明け当時は、子育てと仕事の両立で真剣に悩んだことがありました。そんな頃に書いたのがこの本です。専業主婦向けの育児雑誌に違和感を抱き、「働く女性のサバイバル子育て」という視点が無いという思いから、大学時代からの友人である伊藤さん、鳥山さんと共著で執筆を始めました。

妊娠がわかってからどうやって職場に伝えるか、育休中のストレス解消法、保育園探し、子どもが病気の時など、時系列的に3人の体験を交えながら綴っています。単に個人的体験で終わらないよう、全国のワーキングママを対象としたインターネット調査を実施し、その結果も載せています。読者からは『「大変なのは自分だけじゃないんだ」と勇気づけられた』という感想をいただきました。

〔「ワーキングママの本音」 安藤香織・伊藤ゆかり・鳥山奈々 編著、2006年、ナカニシヤ出版、2,400円+税〕

安藤 香織

生活環境学部  
生活文化学科 講師



KAORI ANDO

「ワーキングママの本音」



妻と恋愛してから、もうすでに四半世紀以上経過しているが、いまだに飽きない(飽きられない?)関係にある。恋愛して何が楽しいのと訊いたら、十人十色、いろいろな返答があるのだろうけれども、私の場合、楽しい食事をとることが最も楽しい。利己的の遺伝子仮説に従えば、恋愛は子孫繁栄のためのツールとなるが、個人的な見解では、恋愛は個人が幸福になるためのツールではないか。何が幸福で楽しいのかと訊かれたら、美味しいものを楽しく食べることであるから。事実、人が楽しく生きていく上で食は大きな原動力であり、洋の東西を問わず、昔から食事という行為は、男女の恋愛と深く結びついている。とすると、食の捉え方を見直すだけで、私たちの生活はかなり面白くなるはず。本書は、女子学生からその親御さんまで、みんなで楽しく読めるユニークな「食育」の本である。愛を知るために食を知ること、食にまつわる文化、マナー、健康、料理、美容などを、やさしく解説している。昨今の女子学生はとでも多忙な日々を送っていて、勉強はもちろんのこと、サークル活動、バイト、流行のファッション、友人、恋愛など、寝る間も惜しんで頑張っている。このライフスタイルを、より美りあるものにするために、食の概念を真剣に考えることを提案したい。ただ本書は恋愛指南書ではなくて食育のための本であり、食育の根本にあり重要なことは、人や生き物そして大自然に対する真摯な理解や愛だと考えている。みなさんがそれぞれの幸せを手に入れるのに、本書を役立ててもらえれば幸甚である。執筆の学生の皆さん、そして先生方、ありがとうございました。

〔「恋愛食」松田覚 編著、久美出版社、2006年、本体1,500円+税〕

松田 覚

生活環境学部  
生活健康・衣環境学科 教授



SATORU MATSUDA

「恋愛食」



# 新任教員紹介

①所属・職名 ②専攻分野 ③出身地・出身校(学部、学科別50音順)

## TAKAYUKI NAKAJIMA 中島 隆行

- ①理学部 化学科 准教授
- ②有機金属化学、錯体化学、超分子化学
- ③千葉県
- 千葉県立千葉高等学校
- 早稲田大学理工学部応用化学科
- 早稲田大学大学院理工学研究科応用化学専攻



### 研究と教育の両立

東京という喧騒な都会の生活から、歴史と自然に包まれた落ち着いたある日本の古都・奈良に移り住み、3ヶ月が経とうとしています。この奈良にじっくり腰を落ち着けて悠々の時の流れを感じながら、独創性高い研究と有為ある人材の育成に全力を傾けていきたいと考えております。

## MISAKO OKITA 沖田 美佐子

- ①生活環境学部 食物栄養学科 特任教授
- ②臨床栄養学
- ③岡山県
- 岡山県立西大寺高等学校
- 奈良女子大学家政学部食物学科



### 再び奈良へ

出身は備前の西大寺です。卒業と同時に岡山県立短大助手となり、その後臨床栄養学担当教授として、短大の岡山県立大学への移行とそれに続く大学院の設置などに関わりながら、終始、臨床栄養学の教育と研究に携わって参りました。食物栄養学科の管理栄養士養成課程設置に際し、43年ぶりに教育・研究者としての私のルーツである奈良女に舞い戻りました。卒業以来の経験の一端が後輩たちに少しでもお役に立つならうれしく思います。

## JYUNKO YOKOYAMA 横山 純子

- ①生活環境学部 食物栄養学科 特任准教授
- ②給食経営管理学科、臨床栄養学
- ③岡山県
- 岡山県立岡山朝日高等学校
- 岡山県立短期大学食物科
- 日本女子大学家政学部食物学科
- 岡山大学医学部(研究生)



### 出会いを大切に

料理を作ることも食べることも好きな私が、栄養士・管理栄養士という資格(仕事)の理解も不十分なままとびこんだ食物学・栄養学の道。恩師を始め多くの方々との出会いに恵まれ、その興味深さ、奥深さを感じ、同じ道を志す後輩達の養成に携わること20年余となりました。「楽しみながら食べて健康に」をモットーに、喜ばれる食事提供のあり方について、幅広い視点からアプローチをと考えております。新たな出会いに期待しながら…。

## NAOHICO YAMAMOTO 山本 直彦

- ①生活環境学部 住環境学科 准教授
- ②建築計画
- ③東京都
- 愛知県立千種高等学校
- 京都大学工学部
- 京都大学大学院工学研究科



### 奈良のまちのスケール

この10年間で実に9回目の引っ越しで奈良に住むことになりました。名古屋、京都、彦根、インドネシア、デンマークなど、いろんな所に住んできましたが、歩いて暮らせて文化にも触れられるまちは、本当に限られています。歩いて気分転換や考えごとができる奈良女子大学のロケーションも本当に貴重です。建築や都市について教える立場として、学生の間に徹底的にこの素晴らしいまちのスケールを体で覚えてほしいと思います。

# 新任部局長紹介

①所属学部等・職名 ②所属学科・専攻分野

## KAZUHISA IDETA 出田 和久

- ①文学部 教授
- 文学部長
- ②国際社会文化学科
- 人文地理学、歴史地理学



文学部というと、文献資料を中心とした研究が主と思われがちですが、現在ではそうではありません。文学や言語、文化、歴史はもちろんのこと、社会さらにそれらが存在する空間や人々の活動、その痕跡さえも研究対象とするようになり、研究の方法も実に多様です。つまり、旧来の学問の伝統にのみ振りかかることはできず、自己革新の時代を迎えているのです。しかし、それは法人化以降における実学重視の傾向に迎合しているものではありません。

文学部の教育もこのような変化をうけて、新たな地平を目指して動き出しました。学生がより主体的に学び、問題を見出していき、それにふさわしいシステムをコース制の導入により実現したいと考えています。

## NORIO ISODA 磯田 則生

- ①大学院人間文化研究所 教授
- 生活環境学部長
- ②社会生活環境学専攻、住環境学
- 住環境工学(建築環境学)



4月に生活環境学部長を拝命し、会議などの職務を何とかこなしてきた。これから大変に思うことは、大学認証評価と文部科学省の中期目標期間の教育研究の達成状況の評価である。よい評価が得られないと運営費交付金に反映されそうで、学部の皆さんと協力して対応したいと思う。また、理学部C棟と生活環境学部D棟の耐震改修工事のことである。教育・研究面や工事の騒音・粉塵等で大変な迷惑を被るが、安全で快適な教育環境の整備に努めたい。さらに関係者のご尽力で学部として2つ目の現代GPが採択された。関係の皆さんには多大なご苦勞をお掛けするが、地域の皆さんのご協力を得て、地域や生活で実践できる女性専門職業人養成に寄与できればと思う。

## SEISHI NOGUCHI 野口 誠之

- ①理学部 教授
- 大学院人間文化研究科長
- ②物理科学科 高エネルギー物理学



本学の大学院は、文学部、生活環境学部、理学部を基盤として、より専門性を深める博士前期課程と、専門性の更なる高度化やそれらを総合した学際分野の開拓を目指す博士後期課程から構成されている全学的組織です。大学院としての教育研究水準は、「21世紀COEプログラム」や「魅力ある大学院教育イニシアティブ(2件)」に採択されるなど、高い評価を得ています。一方、政府の様々な諮問会議や社会全般から大学院の改革が強く求められており、これまでの大学院のままで評価を得られない時代の到来が目前に迫っています。このような時期に研究科長の重責を担うことになりました。皆様方のご協力とご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

## WU HAN 吳 晗

- ①文学部 人間行動科学科 助教
- ②比較教育学
- ③中国
- 长春市第一中学、吉林大学文学部、奈良女子大学大学院人間文化研究科



### 「教育」の「比較」の追究

日本に来てから9年間、私の研究の場であった母校に助教として着任し、気概も新たに仕事に取り組んでいるところです。専門の比較教育学は非常に興味ある研究ですが、最近「比較」で何ができるのかということを現実問題として考えています。じっくりと「教育」の学における「比較」の意味と有効性を徹底的に追究したいと考えています。どうぞよろしく申し上げます。



## 広部奨学金授与式

平成19年度広部奨学金授与式が、7月2日(月)に事務局管理棟第三会議室で行われました。

同奨学金は、本学卒業生の故広部りう殿(福井県出身 奈良女子高等師範学校本科数物化学部1期生 大正2年3月卒業)のご遺志により寄附された資金をもって設けられた奨学金制度で、人物・学業ともに優秀な本学学生に授与するもので、今年度は各学部2名、大学院2名(博士前期課程1名、博士後期課程1名)の8名に証書及び奨学金が井上副学長(教育・学生支援担当)から贈られました。



## 授業料免除についてのお知らせ

平成20年度前期分授業料免除及び徴収猶予に関する出願書類の交付及び受付を下記のとおり予定していますので、出願を予定している人は忘れずに学生生活課で手続きを行ってください。

おって、詳細については1月下旬に掲示しますので注意してください。

出願書類交付：2月上旬～3月上旬

出願書類受付：3月上旬～3月中旬

## 学生表彰

学生表彰制度による表彰式が、7月23日(月)に学長室で行われました。

この制度は、課外活動や社会的活動などで特に顕著な成果を挙げた本学学生の個人又は団体を表彰するもので、今回は次の2名の学生が久米学長より表彰を受けました。

〈個人成績〉

今井麻優子(文学部4回生 なぎなた部)

第25回関西学生なぎなた選手権大会個人試合 初段の部 第2位

有森 円(生活環境学部3回生 アイススケート部)

第27回国公立大学フリースケーティング競技会 D1クラス 第2位



## MASAMI UJI 氏 昌末

- ①生活環境学部 食物栄養学科 助教
- ②栄養生化学
- ③富山県  
富山県立富山高専  
熊本県立大学環境共生学部  
奈良女子大学大学院人間文化研究科生活環境学専攻  
奈良女子大学大学院人間文化研究科共生自然科学専攻



### きっかけ

高校生の頃、ハードな運動部で活動しているにも関わらず食事を疎かにしてしまい極度の貧血になったことがあります。このことから食生活の重要性を痛感し、大学では栄養学を学びました。さらに、ヒトの健康について幅広く学ぶため、大学院では生体の精神的ストレス反応について研究を行ってきました。そしてこの度、栄養学の分野に戻ってきました。様々な経験をつみ、それを還元できるような頑張りたいと思います。

## AKIKO MIYACHI 宮地 明子

- ①大学院人間文化研究科  
比較文化学専攻文化史論講座 助教
- ②日本古代史
- ③愛知県  
愛知県立安城東高等学校  
奈良女子大学文学部  
奈良女子大学大学院人間文化研究科



### 奈良

学部生のころから奈良女子大学で過ごし、奈良での生活も10年をこえました。こんなに長く奈良に住むことになるとは、正直思っていませんでした。研究においても、はじめは平安時代を専攻したいと思っていたのに、気がつけばいつの間にか、飛鳥・奈良時代を専攻していました。もちろん今では、奈良の地で、奈良に因んだ研究ができることを幸せに思っています。これからもどうぞよろしくをお願いします。

## YUI MAKINO 牧野 唯

- ①大学院人間文化研究科  
社会生活環境学専攻生活環境計画学講座 助教
- ②住生活学
- ③京都府、神奈川県  
京都府立鴨沂高等学校  
奈良女子大学家政学部生活経営学科  
奈良女子大学家政学専攻住環境学専攻  
奈良女子大学大学院人間文化研究科生活環境学専攻



### いにしへの地に新らしきを知る

博士課程修了後、熊本と島根の短大に勤める機会を頂き、九州から中国・四国各地にて活躍される奈良女の諸先輩とご縁に恵まれました。母校の恩恵にあずかり、恩師に支えられてきた者として、微力ながら教育・研究に貢献してゆく所存です。知的刺激にあふれる研究環境のもと、激変する現代社会を見極めながら、住まいと生活に対するセンスを磨き、おもねることなく研究に励んでまいります。どうぞよろしくをお願いいたします。

## CHEN QINGYUN チン ケイウン

- ①大学院人間文化研究科  
共生自然科学専攻基盤生活科学講座 助教
- ②高分子化学
- ③中国  
西安交通大学化学工程学院化学科  
奈良女子大学大学院  
人間文化研究科共生自然科学専攻



### 新天地への挑戦

近年産業界におけるナノテクの発展は目覚しく、その分野は多岐にわたっています。素材分野においても材料と呼ばれる研究とその進展は21世紀における材料の革命の変革を期待します。そして、私はナノテク繊維の開発とパラレル素材への応用を目指して、新天地を開拓したいと考えています。四月から美しく愛すべき奈良で毎日楽しく科学道に進んでいます。

## 平成19年度就職活動支援行事カレンダー(後期分)

就職支援室では、就職を希望する学生に対して、各種の就職活動支援行事を企画・実施しています。就職マニュアル本だけでは得られない知識や情報等の収集の場として、積極的に参加・活用してください。行事開催の詳細な内容や実施日時・場所に変更があった場合などは、掲示で順次通知されますので、掲示板をいつも見るよう心がけてください。

【一般就職対策関係】 一般企業・公務員・教員希望にかかわらず、受講してください。

月・日	曜日	就職活動支援行事(講座等名称)	時間	教室	対象
10/10	水	ナビの正しい活用法 ～登録・利用時の注意(ナビ各社の説明)～	16:30～18:00	S218	2・3回生・M1
10/15	月	Ⅳ. 情報収集～ナビ活用と情報ソース～	①14:50～16:30 ②16:50～18:30	S218	3回生・M1
10/17	水	筆記試験対策セミナー (出題傾向の分析と解説)	16:30～18:10	S218	3回生・M1
10/22	月	OG対談「働く女性の話を知ろう」	16:30～18:10	S218	3回生・M1
11/7	水	Ⅴ. 情報収集のまとめ ～合同説明会とESの基本&履歴書の攻略～	①14:50～16:30 ②16:50～18:30	S218	3回生・M1
11/12	月	エントリーシート攻略セミナーⅠ (ESへの取り組みや採用側の要求にどう応えるか)	16:30～18:10	S218	3回生・M1
11/14	水	ビジネスマナーセミナー	16:30～18:40	S218	3回生・M1
11/16	金	エントリーシート対策テスト	16:30～18:10	E108	3回生・M1
11/17	土	エントリーシート対策テスト (11/16実施と同一内容)	10:30～12:10	E108	3回生・M1
11/26	月	エントリーシート攻略セミナーⅡ (対策テストのフォローセミナー)	16:30～18:10	S218	3回生・M1
12/7	金	個別面接・グループディスカッション対策講座	16:30～19:40	G203 G204	3回生・M1
12/8	土	個別面接・グループディスカッション対策講座 (12/7実施と同一内容)	13:00～16:10	G203 G204	3回生・M1
12/15	土	Ⅵ. 面接対策講座(総まとめ) ～就活最終チェック、面接ロールプレイング～	①10:00～12:40 ②13:00～15:40	S218	3回生・M1
20. 1/22	火	学内合同企業説明会の事前説明	①14:50～15:50 ②16:30～17:30	G101	3回生・M1
1/26	土	学内合同企業説明会	13:00～17:00	記念館	3回生・M1
2/中旬		「関東地区就職希望者のための就職懇談会」 (同窓会 佐保会東京支部との共催)			3回生・M1

### 【教員対策関係】

月・日	曜日	就職活動支援行事(講座等名称)	対象
12/上旬		教員試験合格者体験報告会 内定者就職体験報告会予定	3回生・M1

### 【インターンシップ関係】

月・日	曜日	就職活動支援行事(講座等名称)	時間	場所	対象
10/6	土	奈良県インターンシップ制度 実習発表会 (事後研修会)	13:00～18:00	奈良産業 大学	2・3回生

セミナーやガイダンスに参加したくても、授業で参加できない人は、学生生活課就職係で、資料配付と共にビデオ撮影したものを貸し出しています。後日の時間のあるときに、就職資料室にて視聴しに来てください。

## 第45回近畿地区 国立大学体育大会の結果について

第45回近畿地区国立大学体育大会(当番大学:大阪教育大学他)が8月7日(火)～25日(土)に開催され、熱戦が繰り広げられました。

本学は8種目に参加し、次の団体が見事入賞を果たしました。

〈団体〉 テニス(優勝)、卓球(準優勝)、水泳(第4位)

## 学生相談室から

### ●学生相談室は、あなたのマインドスペースです。

学業や進路の不安、日常生活で困ったこと、対人関係など、さまざまな心配事について一緒に考えましょう。話を聞いてもらうだけでも、落ち着くこともあります。相談室はあなたの話にじっくり耳を傾けます。そのことで解決の糸口が見つかるかもしれません。内容に応じて適切な人や機関を紹介することもできます。

### ●開室日及び開室時間

月曜日～金曜日 午前10時～午後5時  
夏期休業期間中は月曜と木曜のみ開室  
8月第3週と第4週、12月27日～1月5日、  
入学試験日(前期・後期)は閉室します。  
上記以外で閉室する場合は、構内掲示板や相談室前に  
その旨を掲示することにより、お知らせします。

学生相談室の場所は学生会館3階です。  
TEL.0742-20-3925  
Eメール soudan@cc.nara-wu.ac.jp

### ●スタッフ

#### ■相談受付

金 文子(月曜日・水曜日・金曜日)  
岩井涼子(火曜日・木曜日)

#### ■カウンセラー

皆藤靖子(臨床心理士)  
竹村百代(臨床心理士)

#### ■相談員

奥村和美(教員)  
新出尚之(教員)  
井上裕康(教員)

